



岩手県県北家畜保健衛生所
岩手県北家畜衛生協議会

目次

巻頭言	・・・1
豚熱ワクチン接種農場における免疫付与状況確認検査の結果	・・・2
鶏に万全な暑熱対策を	・・・3
死亡牛の早期搬入にご協力願います	・・・4

巻頭言

所長 本川 正人



日頃から家畜防疫、衛生対策に御理解、御協力賜り感謝申し上げます。

さて、令和4年2月12日に、管内の久慈市で県内初となる高病原性鳥インフルエンザの発生があり、市町村、関係機関・団体等の御協力のもと、同年2月14日殺処分等の防疫措置が完了し、同年3月1日に搬出制限及び3月8日には移動制限が解除されました。家畜飼養者及び関係者における農場への侵入防止対策の徹底により、続発は確認されませんでした。偏に皆様の御努力の賜物と敬意を表します。また、同年5月12日に一関市で県内2例目となる高病原性鳥インフルエンザ発生がありました。

一方、豚熱では、令和4年4月20日に一関市で捕獲した野生イノシシから豚熱ウイルス陽性が初めて確認され、県内にも遂に同ウイルスが侵入していることが判明しました。8月4日現在、陽性が確認された市町村は一関市、平泉町、奥州市、北上市、紫波町及び雫石町の6市町で、捕獲した45頭の野生イノシシから同ウイルス遺伝子が検出され感染拡大しており、県内養豚場での発生リスクが高まっています。

これら家畜伝染病による農場への侵入防止対策の徹底及び万が一発生した場合の迅速かつ適切な防疫対応の推進には、市町村、関係機関・団体等との御協力が不可欠です。

引き続き、畜産農家の皆様には、飼養衛生管理基準の遵守、異常家畜の早期発見・通報など、防疫対策の徹底をお願い致します。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、生乳需要の減少、枝肉価格の下落等、畜産物への影響が続いており、収束の見通しが見えない状況の中、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の長期化の影響で円安が進行し、飼料価格が高騰するなど畜産経営を直撃しています。また、食料及びエネルギー等の物価上昇により、国民への日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。

当所の役割は、畜産農家が安全で高品質な畜産物の生産により安定した経営が展開できるよう、最新の家畜衛生の知識と専門技術を駆使し、家畜の伝染性疾患の予防やまん延防止に努めるとともに、慢性疾病対策を進め生産性向上を支援することです。基本姿勢・行動指針は（１）ビジネスパートナーの関係機関や獣医師と協力し、生産性を阻害する各種疾患の発生を防止するとともに飼養衛生管理基準の遵守徹底、顧客である生産者に向けた情報発信、研修会等を開催すること。（２）畜産物の安全性を確保するため生産段階における危害要因の除去を徹底し、安全という付加価値として生産者の所得向上に繋げることです。スローガンは、（１）県北地域の家畜の飼養衛生管理レベルを向上させます。（２）管内の家畜伝染病の侵入防止とまん延防止に努めます。（３）安全・安心で高品質な畜産物の生産を支援します。（４）日々変化する社会経済情勢を収集し、科学的な知見・技術を習得し、専門技術を研鑽し、顧客のニーズに対した確かなサービスの提供に努めます。以上、関係者と一緒に高い防疫水準を維持し、生産性向上対策を支援して参ります。

県北家畜衛生協議会では、当協議会事業である各種ワクチン接種等による生産性向上対策等に引き続き取り組んで参りますので、ワクチン接種等の普及啓発に御協力をよろしくお願い申し上げます。

豚熱ワクチン接種農場における 免疫付与状況確認検査の結果

本病の農場における発生は、令和4年8月4日現在で83事例確認されています。また、野生いのししの陽性確認事例は、本年4月に本県で初めて確認され、以降、6市町（一関市、平泉町、奥州市、北上市、紫波町及び雫石町）45事例が確認されています。

本病のワクチンは、適切な時期に接種をしないと移行抗体の影響でワクチンブレイクします。また、接種が遅れると免疫がない空白期間が生じます。

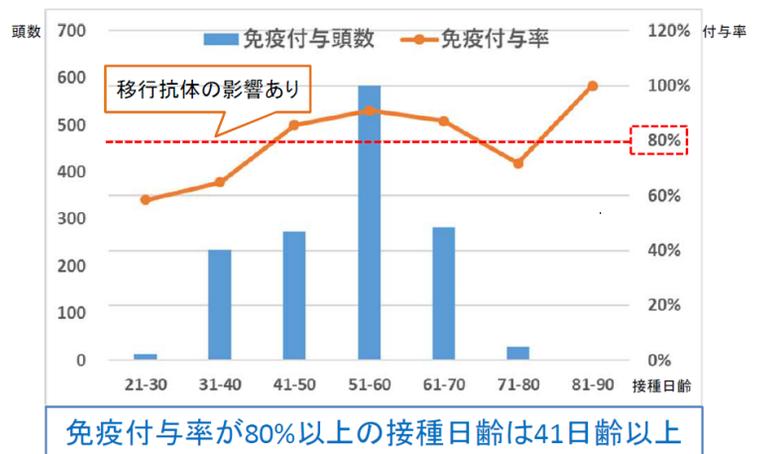
現時点での本県の検査結果をお知らせしますので、接種時期の参考としてください。

検査結果

	検体数	ELISA検査結果			免疫付与率
		陽性	疑陽性	陰性	
繁殖豚 25戸	644	638	4	2	99.7%
肥育豚 61戸	1804	1351	132	321	82.2%

今回、25戸644頭の繁殖豚、61戸1,804頭の肥育豚の検査を実施しました。**免疫付与率が80%以上であれば、群として十分に免疫を保持している**と言えますが、繁殖豚は99.7%と高い抗体を得ていたのに対し、肥育豚は82.2%と低い状況でした。また、肥育豚について、接種日齢における付与率を調査した結果、**付与率が80%以上の接種日齢は41日齢以上**でした。

接種日齢における免疫付与率



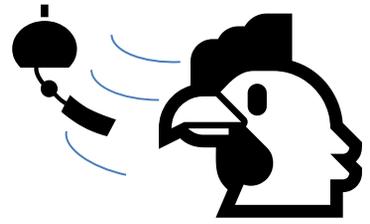
飼養衛生管理基準を順守しましょう

現在、管内の農場の大部分が、初回接種でワクチンを接種した第1世代の繁殖豚であり、高い抗体を保有していることから、移行抗体の持続期間が長いと言われています。

今回の検査結果について、管理獣医師等と相談しながら、ワクチン接種適齢期の検討をお願いします。

なお、**どの農場にも免疫が付与されていない個体が存在することを前提に、ワクチン接種だけでなく、飼養衛生管理基準を遵守し、本病の予防をお願いします。**

鶏に万全な暑熱対策を！



設備点検、鶏舎環境の整備によりトラブルを回避

センサー・電源・警報機器、ファンベルト、飲水設備等の点検、整備の徹底をお願いします。

散水による床面悪化にも注意しましょう。

万が一の事故発生時は、直ちに家保に通報してください。

【確認事項】

- ・ 日齢
- ・ 温度（鶏舎内・外）
- ・ 対策の状況
- ・ 死鶏分布...など

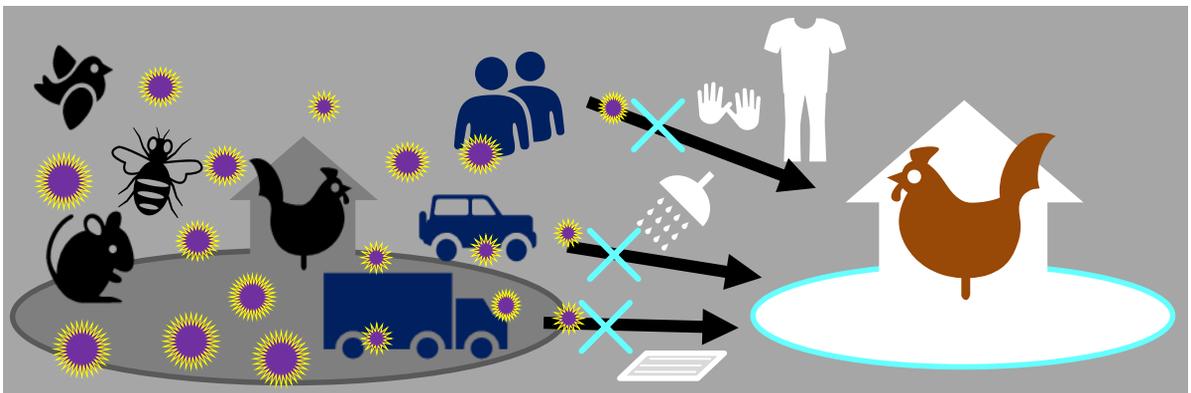
作業中の熱中症予防対策について

気温・湿度が上昇する季節を迎え、作業者の熱中症発生リスクが高まることが予想されます。作業間のこまめな休憩、水分・塩分補給を心がけ、作業者同士互いの健康に注意しましょう。

農場の衛生管理にご協力ください

鶏に病気を引き起こす病原体は、環境中に存在しており、人や車、物品に付着して農場内に侵入する可能性があります。養鶏場では、健康で衛生的な鶏を生産するため、農場敷地を衛生管理区域と設定し、病原体の侵入防止を徹底しています。農場に立ち入る必要がある場合は必ず、敷地の境界で

【衣服、長靴の交換】、【手指の消毒】、【車両の消毒とフロアマットの交換】を実施してください。



死亡牛の早期搬入にご協力願います

1 死亡牛届の提出

死亡牛は、速やかに獣医師の検案を受け、死亡牛届を提出してください。獣医師が検案しない場合は、家畜保健衛生所に御連絡ください。

2 死亡牛の保冷库への早期搬入

高温となる夏期は、**死亡牛の腐敗が早くなります**。
検査材料の融解等により、**BSE検査が不能**となる場合がありますので、保冷库へ早期に搬入願います。

県北家畜保冷保管施設におけるBSE検査材料の地域別融解率（令和3年度）

地域	採材頭数	融解頭数	融解率
久慈地域	88	14	15.9
二戸地域	131	35	26.7
その他地域	500	65	13.0
総計	719	114	15.9

県北管内のほとんどの地域で融解率が20%を超えています。保冷库への早期搬入にご協力ください。

体制紹介



《発行元・問い合わせ先》

岩手県県北家畜保健衛生所

電話：0195(49)3006

FAX：0195(49)3008

岩手県北家畜衛生協議会

電話：0195(49)3040